

## “石のなべ”の謎—滑石製石鍋と中世の日本列島—

神奈川県教育委員会文化遺産課 久我谷溪太

### 1. 「滑石製石鍋」とは

- 滑石の特性：軟らかい(加工しやすい)、保温性がある
- 生産地：西彼杵半島(長崎県)が中心⇒ホゲット石鍋製作所遺跡(西海市)など
- 系譜：滑石製経筒起源説、大陸・半島起源説、日本列島発生説

### 2. 文献史料に現れた“石なべ・石鍋・いしなべ”

- 石鍋料理：芋粥、甘葛煎、鳥肉料理
- 価値・価格：4個で牛1頭、財産・耐久消費財

### 3. 滑石製石鍋の器種と分布

- 鍋型から羽釜型へ・・・12世紀代に転換⇒東日本へ流通が拡大
- 出土集中地域・・・鍋型：九州北部・琉球列島—羽釜型：九州北部・鎌倉

### 4. 琉球列島の滑石製石鍋と城久遺跡群

- 城久遺跡群Ⅱ期：交易拠点、滑石製石鍋・カムイヤキ・中国陶磁器の極端な集中
- 石鍋模倣土器(グスク系土器)の出現・・・定型的な食器組成の成立
- グスク時代の開始に係る外的影響論の根拠資料⇒主体者像の議論へ

### 5. 羽釜型の出現・流通の背景と鎌倉

- 文献史料・・・彼杵荘—東福寺—鎌倉のつながり
- 中世の煮沸具・火処：鉄製・土製・石製—鍋・羽釜／カマド、イロリ、火櫃・火鉢
- 鎌倉出土滑石製石鍋の“東国向け措置”・・・鎌倉での使用を前提としていない

### 6. 滑石製石鍋の補修・リサイクル

- バレン状製品
- 硯
- 温石
- スタンプ

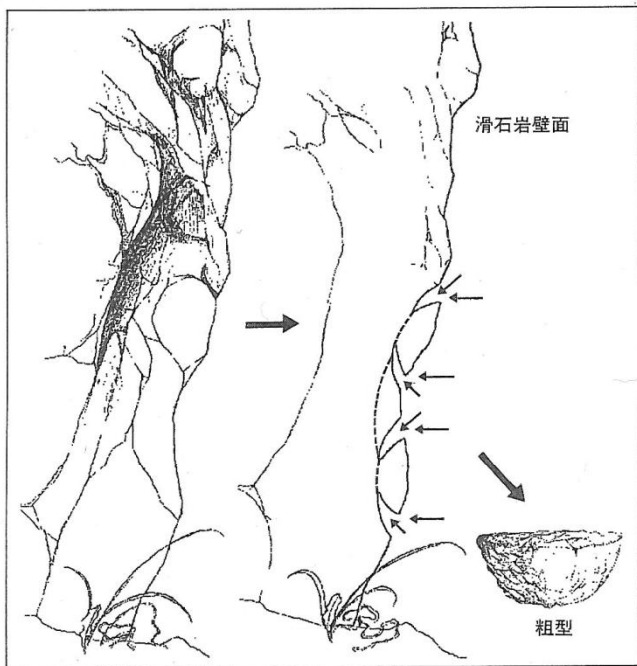


(長崎市西海歴史民俗資料館蔵)

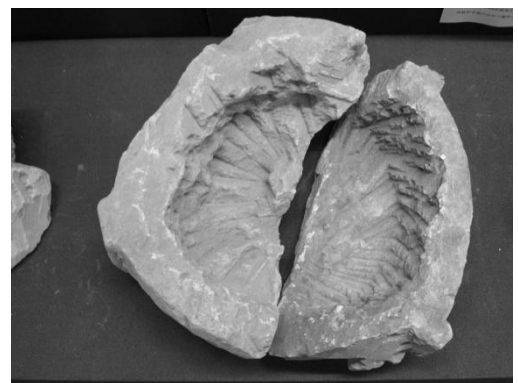


(広島県立歴史博物館蔵)

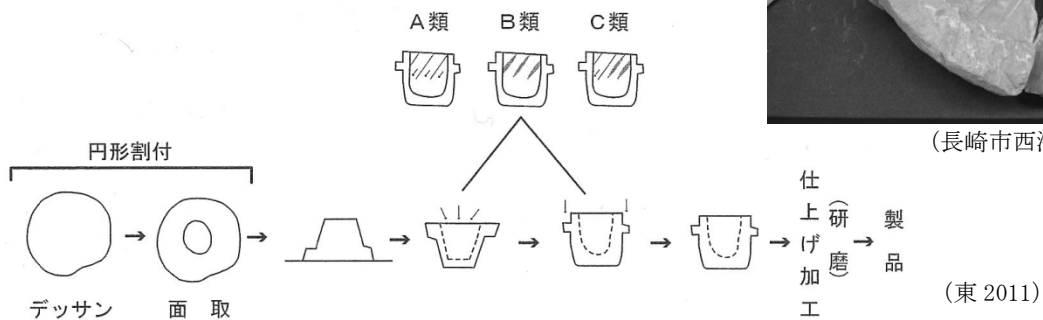
## 1. 滑石製石鍋



(下川 1992)



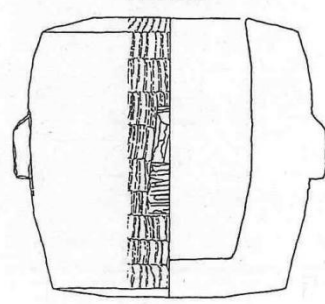
(長崎市西海歴史民俗資料館蔵)



## 2. 滑石製石鍋の製作方法と生産遺跡・未成品



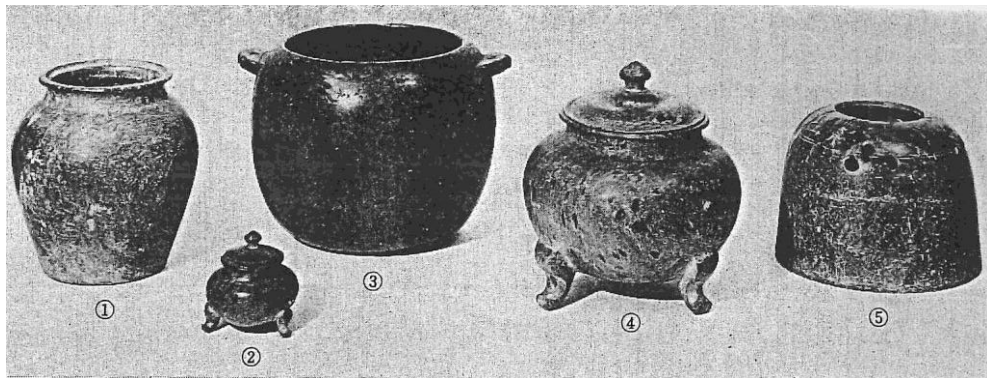
(『用の美』)



(『徳永 2010』)



(掲載元不明)



(弓場 1985)

### 3. 石のなべ・石のうつわ

『厨事類記』(十三世紀末頃)

暑預粥ハ。ヨキイモヲ皮ムキテ。ウスクヘギ切天。ミセンヲワカシテイモヲイルベシ。イタクニルベカラズ。又ヨキ甘葛煎ニテニルトキハ。アマヅラー合ニハ水ニ合バカリイレテニル也。石ナベニテニル。チヒサキ銀ノ尺子ニテモリテマイラス云々。或説云。銀ノ提ニ入テ銀ノ匙ヲグシテマイラスベシト云。

『類聚雑用抄』(十二世紀後半頃)

甘葛煎方。

器用ニ石鍋又銅物。是等ニ入テ。固炭ヲオコシテ。灰ニ埋テ。口小ヲ開<sup>ク</sup>テ。火ヲユルマシテ。アツカラズ。寒カラズ。品同程ニ天。夜日七日許煎之。其間アハノ立ヲ。随<sup>レ</sup>出天取スツル也。鍋蓋ニハ。綿ヲ敦ラカニ張之。出氣ヲ出テ。塵ヲイレシ料也。金輪用之。

煎蜜法。以<sup>レ</sup>密入<sup>レ</sup>器。埋<sup>レ</sup>火居之。常檢器。頭適寒温。微々之。煎。銅石鍋同用。蓋ニハ綿ヲハル。塵入レマシ。堅

#### 4-1. 史料のなかの石鍋～芋粥・甘葛煎～

『武家調味故実』(十六世紀中頃)

一しぎつぼの事。

つけなすびの中をくりて。しぎの身をつくりて可入。身をば大略のこすべからず可入なり。かきのはを〔ふたにしてからぐる事あり。わらのすべにてからぐる也。いしなべに酒を入れて煎べし。くはしくは別本に有之。折びつにみゝがはらけにいたためじほ置て可入。〕

但。しぎ二にてしたゝむべし。さてこそ別足四はあ  
るべけれ。必雪の朝にてなくともまいるべし。  
火にたきて。あたゝめてまいらすべし。みゝ  
さらになためじほ置て。折びつの中の前に置  
てまいらすべし。

一鴈のもゝきいりの事。もゝきのうちの皮をす  
きて。ほそくわりてうすひろに作りて。酒と  
鹽と入てよくあへて。皮いりするやうに石鍋  
にているべし。鹽をすこし多入て。常の皮い  
りよりもいりすごし。さて取あぐる時かふち  
のすをしぼりかけて進すべし。汁はきはめて  
しほからくしてわろし。

4-2. 史料のなかの石鍋～鳥肉料理～

〇二一九七 筑前國船越莊未進勘文〔東大寺文書 四ノ四十六番〕  
船越庄二箇年未進注文

注進 船越御庄去々年并去年未進事

合

樽一領直六拾疋 石鍋一口〔但阿加那へ斗納 直十疋〕

白布二丈五尺直六疋 刀一齧直十五疋

久ワ四口 袴一齧直二疋 白井笠一直一疋

此物去々年未進〔米カ〕本一石七斗但下定吉丸辨

又去々年未進六斗下定其辨八丈絹四丈〔直十疋〕乙丸辨

又去年未進、六郎丸辨

樽一領直四十疋 牛一頭直四十疋

紺水干一直四疋

又犬丸未進四斗代辨了、但代狩衣一刀一齧直十〇疋〔直三疋〕

天承元年六月二日

僧郷春 (花押)

四郎丸 (花押)

庄司末正 (花押)

〇八六三五 力王丸田畠家財讓狀〔京都大學 所藏文書〕

證文狀事

合

仁和寺

右、力王丸・毘沙王丸ニ限永代、二あらん物ハ、一可取之、

田一反、畠二反、わるき牛一疋、立うす一〔搦目〕、するす一、水桶

二、かなは一、かま一、石なへ一、かなへ一、酒つほ一、

やふれたるさうやく一、たれつほ一、へいし一、すへいし一、

とはち一、ふるひさけ一、ちやわんのはち一、つきなはち一、

からかさ一、御牛はたくるかたな二、わるきからうと一、ひ

しやく一、七斗納かま一、たかつき一、員數如此、あいかま

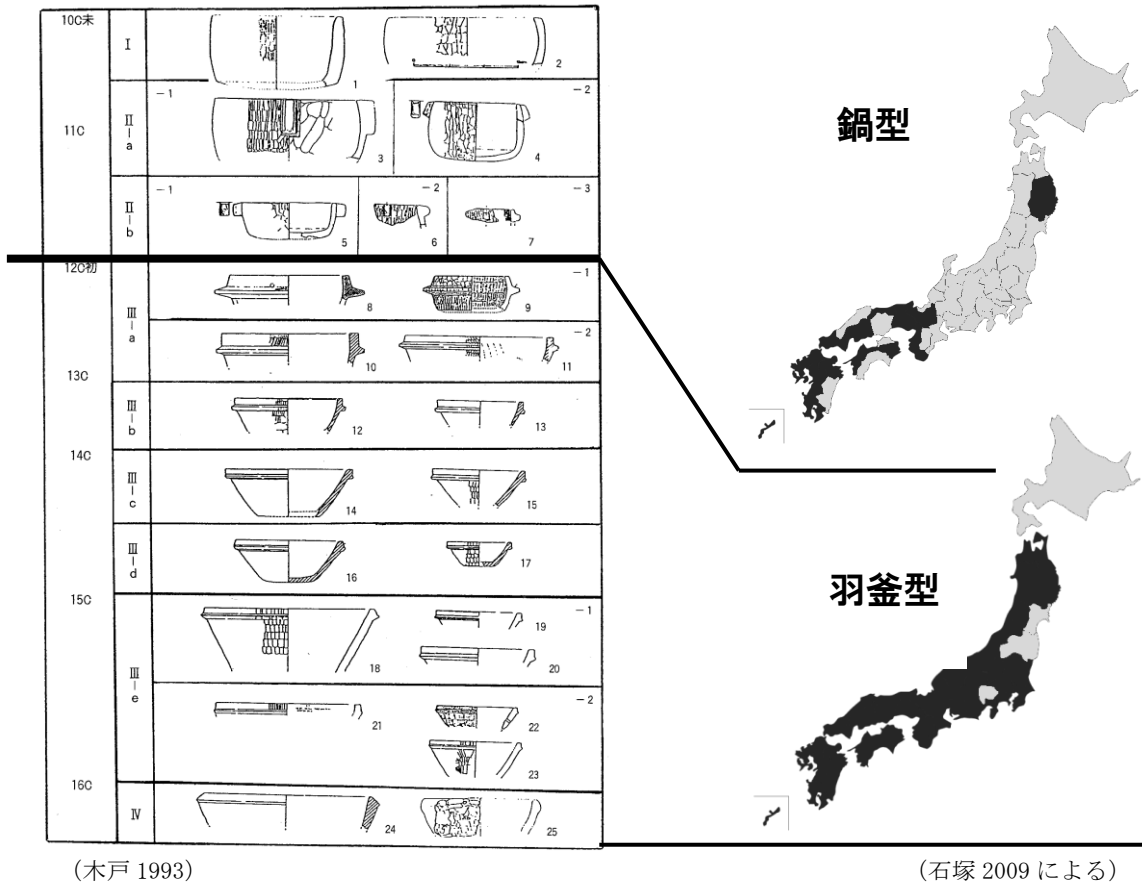
へてく、おと〔弟〕いの中よく、君御ミやつかい奉行、人々に

くまれ〔ら脱カ〕まいせてあるへし、御牛相構心ニ入て相いたはるへし、

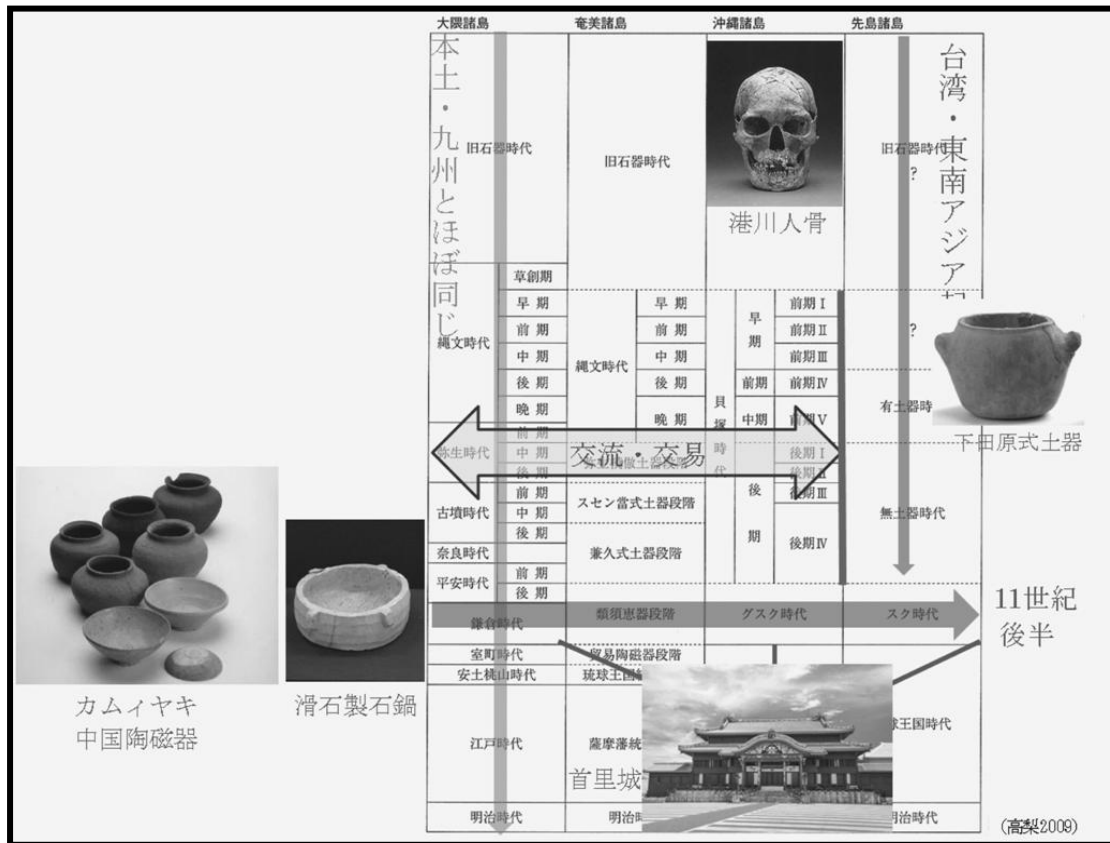
弘長元年三月十七日

父力王丸 (花押)

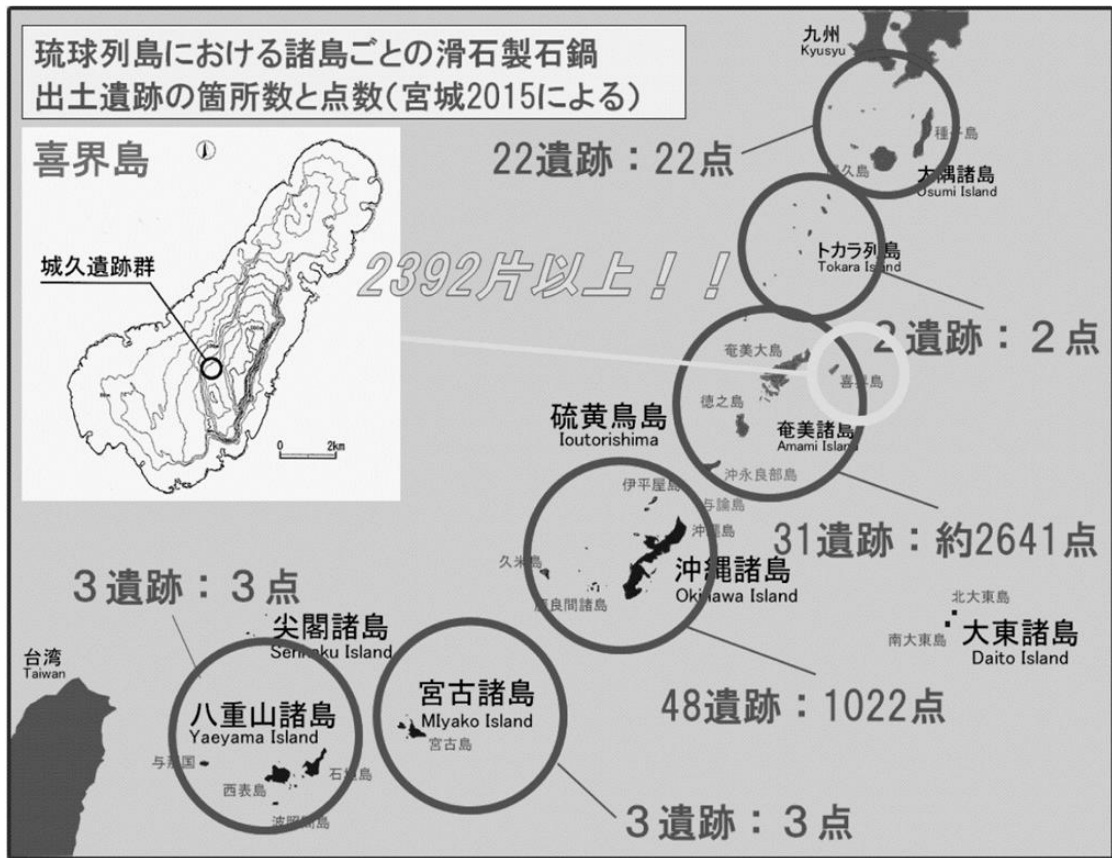
4-3. 史料のなかの石鍋～価値・価格～



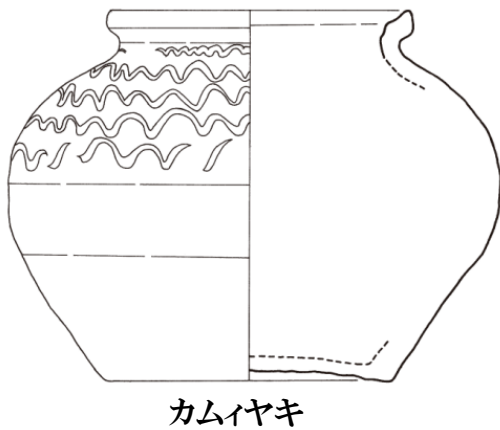
### 5. 滑石製石鍋の編年と分布



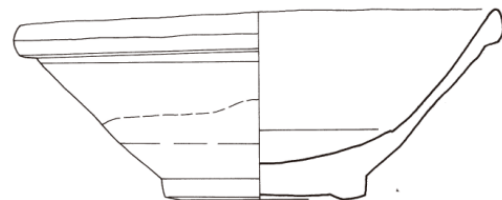
### 6. 琉球列島の歴史の流れ



### 7. 琉球列島における滑石製石鍋の出土遺跡数・出土点数

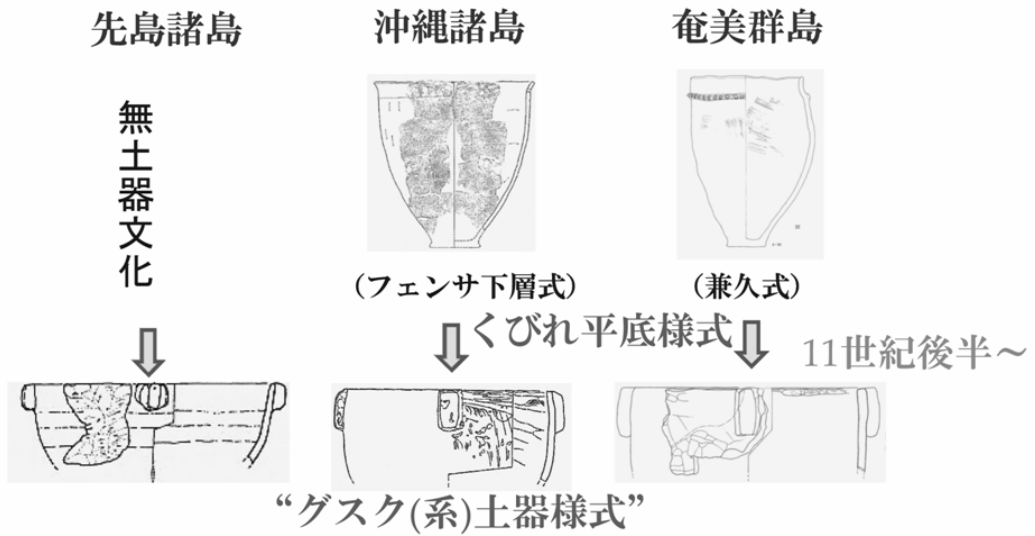


(『山田中西遺跡』 縮尺不同)



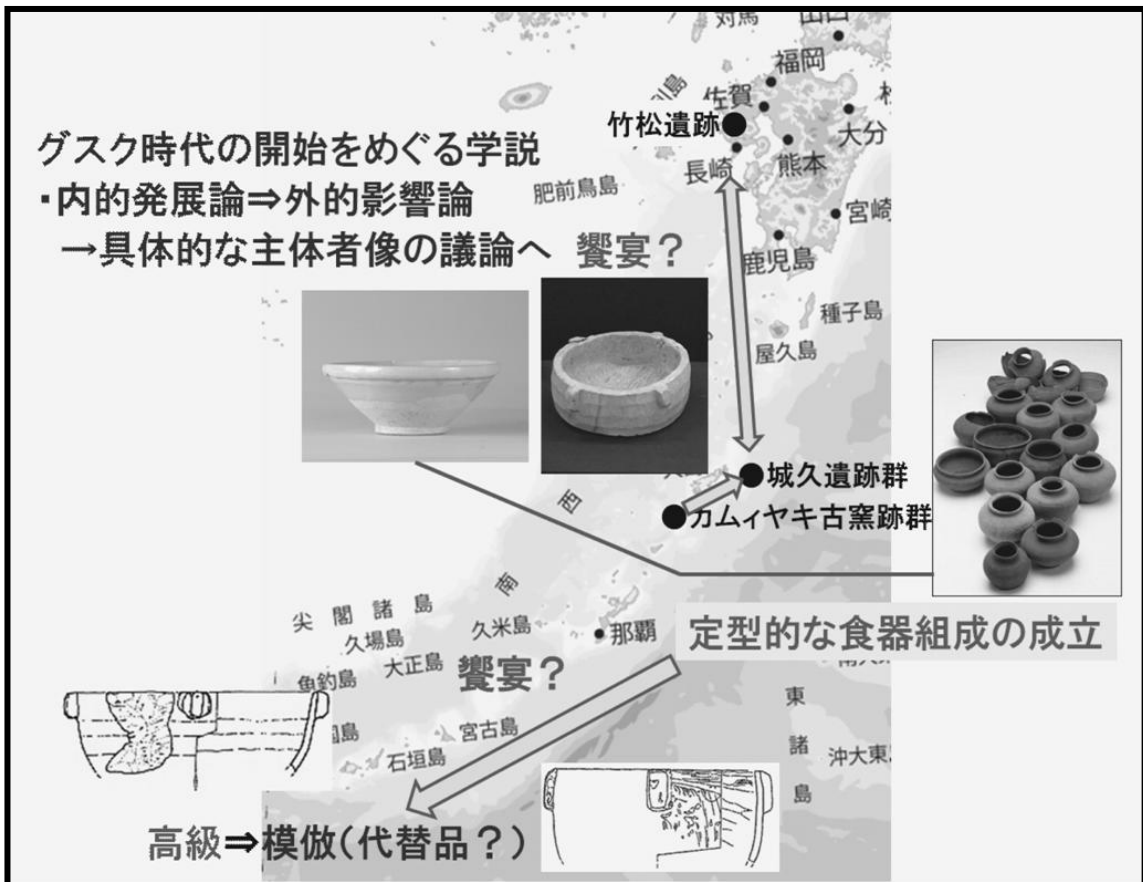
### 8. グスク時代開始期の“3点セット”

# グスク(系)土器の出現=土器様式の転換

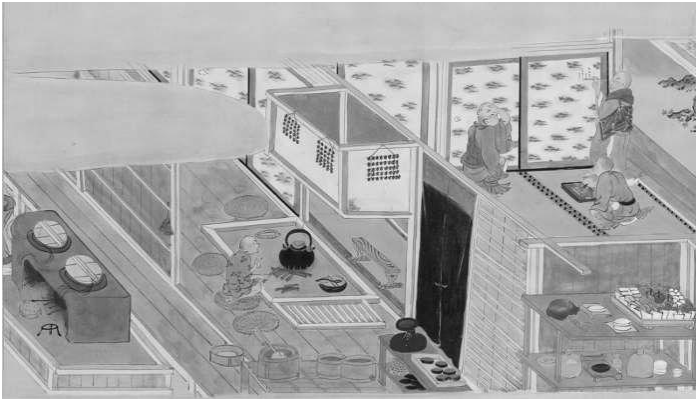


+滑石製石鍋(鍋型)・カムイヤキ・中国陶磁器(白磁碗)  
⇒グスク時代的食器組成の成立

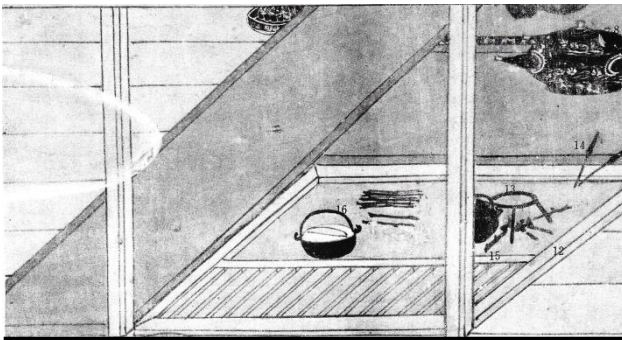
## 9. 滑石製石鍋が在地の土器文化へあたえた影響



## 10. グスク時代のはじまりをめぐる近年の学説の整理



「慕記絵詞」(1351年・西本願寺蔵)



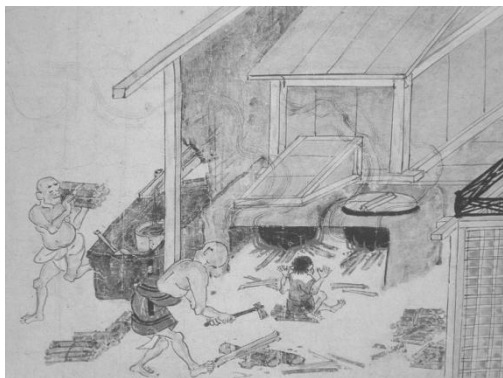
「松崎天神縁起絵巻」(1311年・防府天満宮蔵)



「春日権現験記」(1309年・三ノ丸尚蔵館蔵)



「信貴山縁起絵巻」(12世紀・朝護孫子寺蔵)

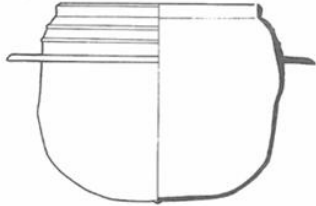


「慕記絵詞」(1351年・西本願寺蔵)

## 11. 絵巻に現れた中世西国の火処と道具

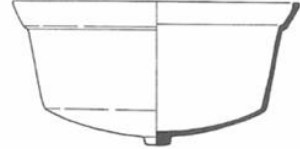


羽釜



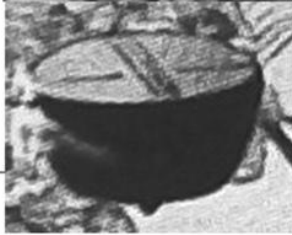
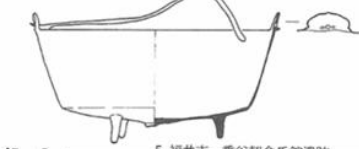
畿内とその周辺

鍋 A



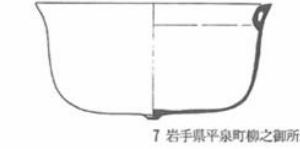
西日本主体

鍋 B



西日本→東日本

鍋 C



東日本主体

1 大阪府枚方市楠葉東遺跡

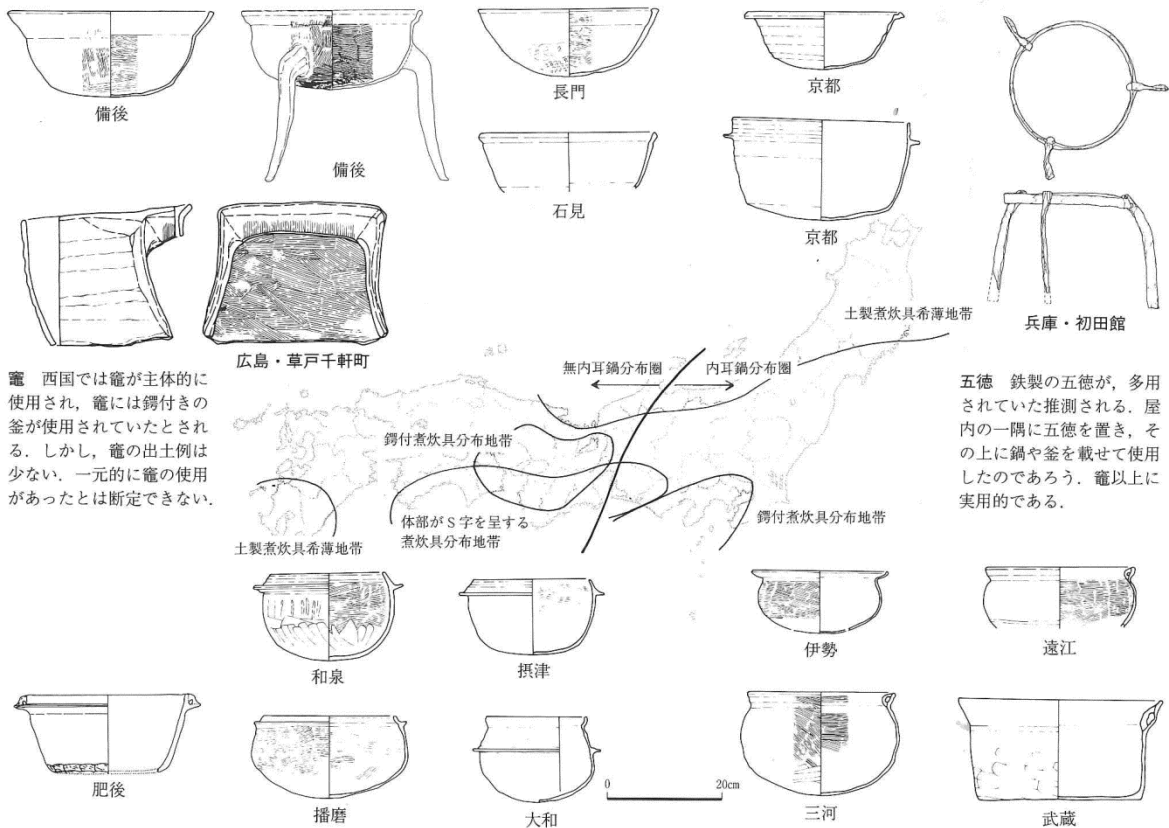
3 大阪府泉大津市豊中遺跡

5 福井市一乗谷朝倉氏館遺跡

7 岩手県平泉町柳之御所遺跡

(五十川1997)

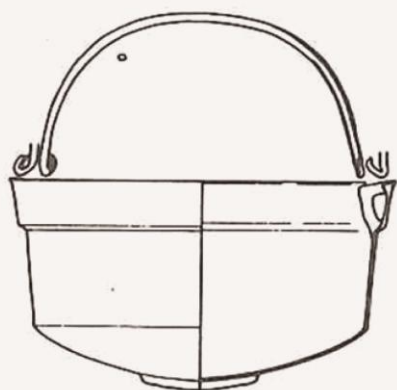
## 12. 中世の鉄製煮沸具



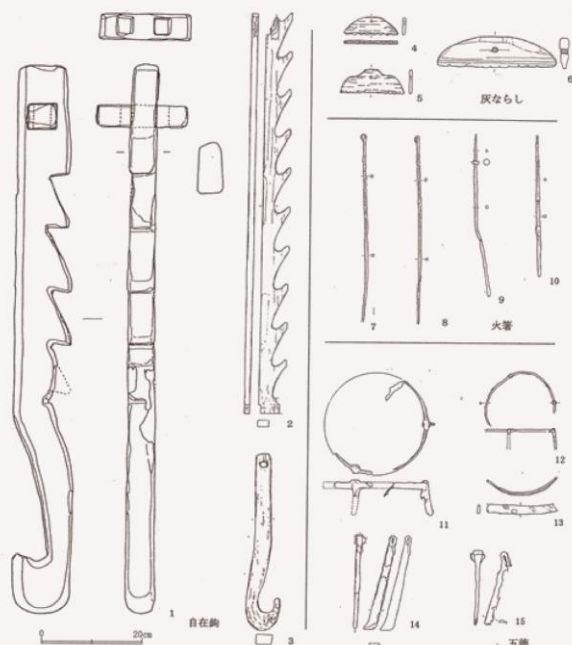
(鋤柄 1997)

## 13. 中世の土製煮沸具

- イロリ：18遺跡39例 ⇔ カマド：2遺跡2例 (山口2012)
- 土製火鉢の使用
- 煮沸具の主体：内耳鉄鍋（出土数少→錆潰し）

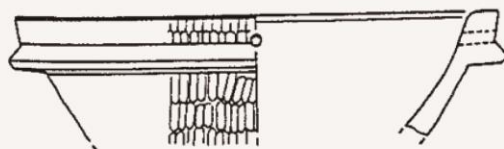


(『千葉地東遺跡』)

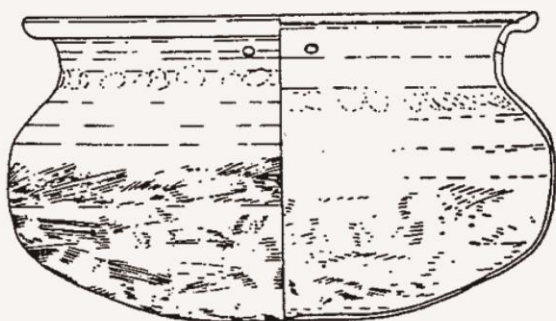


(山口2012)

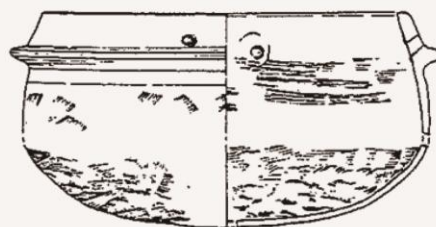
- 搬入煮沸具への“東国向け措置” (馬淵1987)  
→吊るすために口縁に施孔＝イロリでの使用に適合させる



滑石製石鍋



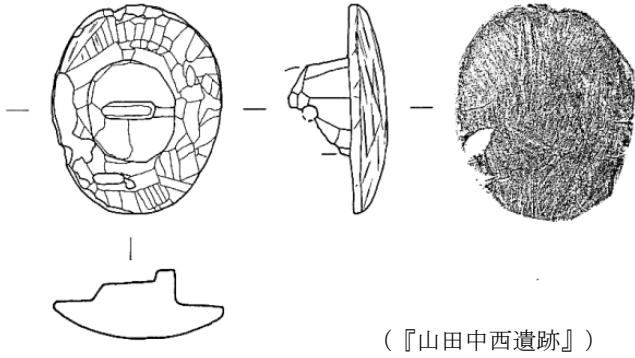
伊勢系鍋



土釜

(『千葉地遺跡』)

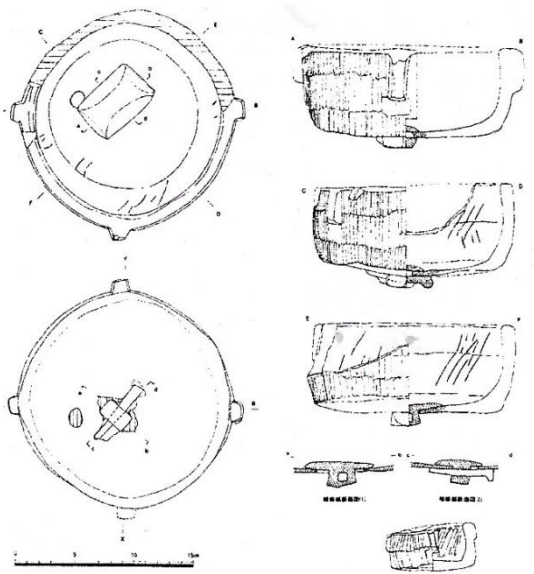
## 14. 中世鎌倉の火処と道具



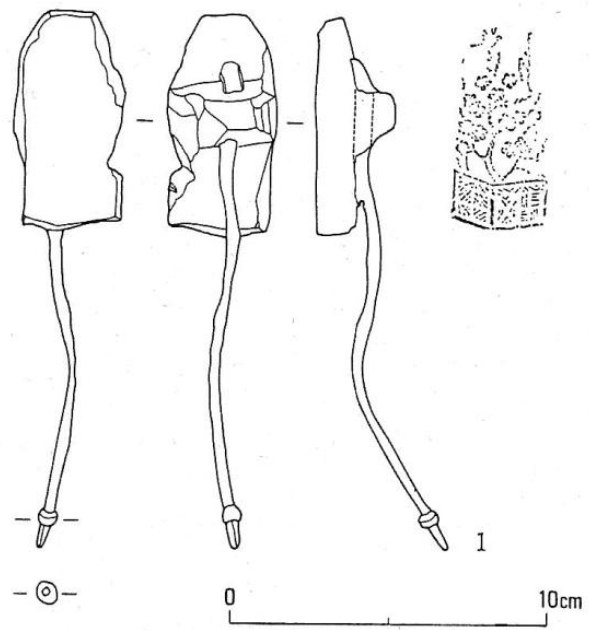
(『山田中西遺跡』)



(『下馬周辺遺跡』)



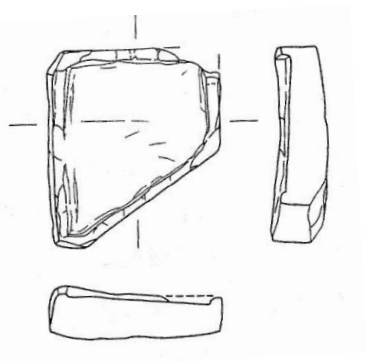
(『八児遺跡』)



(『千葉地東遺跡』)

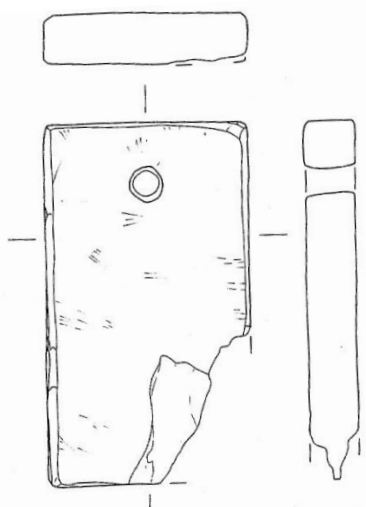
**バレン状製品**

**スタンプ**



**硯**

(『下馬周辺遺跡』)



**温石**

(『下馬周辺遺跡』)

**15. 滑石製石鍋片の再加工製品**

## ★用語解説★

### ○滑石

- ・水酸化マグネシウムとケイ酸塩からなる鉱物。硬度1と軟らかく、白色・淡緑色で、真珠光沢を持つ。保温作用、利尿作用、消炎作用がある。タルク。

### ○グスク時代

- ・琉球列島における時代区分のひとつ。グスク系土器様式の成立（11世紀前後）から琉球王国第一尚氏王権成立前後（15世紀初頭前後）まで（『沖縄県史』）。

### ○痕跡器官

- ・考古資料のある部位が本来の機能を失いながらも痕跡的に残存し、実用的な機能をなくした付加物に変化すること。

### ○住蕃貿易

- ・文献上の「博多綱首」＝博多に長期にわたって居住する宋商人が主体となって展開した貿易の形態。鴻臚館の衰退（11世紀後半）から元寇（13世紀後半）まで。

### ○様式

- ・いくつかの器物の型式の一定の組み合わせの単位。同一の時期・地域で同じ社会体系のもとに生活の要求を満たす複合体。

### ○歴史考古学

- ・文字で書かれた記録の存在する時代を対象とした考古学的な研究方法のひとつ。考古学的な資料に加えて、文献史料や絵画資料なども利用する。⇔先史考古学。

## ★参考文献(公立図書館・インターネットで読めるもの)★

- 石橋 頭 2011 「古代甘味料・甘葛煎の概要」『和菓子』18, 虎屋文庫
- 大庭康時 2009 『中世日本最大の貿易都市 博多遺跡群』遺跡を学ぶ61, 新泉社
- 河野眞知郎 1995 『中世都市鎌倉』講談社メチエ49, 講談社
- 喜界町教育委員会編 2016 『城久遺跡群－総括報告書－』
- 渋沢敬三編 1984 『絵巻物による日本常民生活絵引』1～5, 平凡社
- 鈴木康之 2006 「滑石製石鍋の流通と消費」『鎌倉時代の考古学』, 高志書院
- 松尾秀昭 2016 「滑石製石鍋の生産・流通」『石が語る西海の歴史』, アルファベーターブックス
- 馬淵和雄 1989 「鎌倉の煮炊き」『武士の都 鎌倉』よみがえる中世3, 平凡社
- 吉岡康暢他 1997 『国立歴史民俗博物館研究報告』71(中世食文化の基礎的研究), 歴博
- 吉成直樹・高梨修・池田榮史 2015 『琉球史を問い直す』叢書・文化学の越境23, 森話社